



# 白神通信

2017. 2月発行 No.81

東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター  
〒018-3201  
秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3  
Tel 0185-79-1003  
Fax 0185-79-1005

## ニホンジカの試行的捕獲開始

白神山地の周辺地域で目撃情報が相次いでいるニホンジカの対策として、当センターでは今年度から初めての試みとなる小型囲いわなによる試行的捕獲事業を実施しました。使用した小型囲いわなは四国森林管理局で開発され捕獲実績がある、全高130cm×幅75cm×奥行180cm、重量58kgと軽量コンパクトで、2人で設置・移動ができ、組み立ても容易にできます。

使用したエサは干し草、米ぬか、ヘイキューブ、ユクルの4種類です。干し草、米ぬかについてはみなさんもご存じかと思いますが、ヘイキューブはマメ科のアルファルファという牧草を乾燥させキューブ状に圧縮したものです。またユクルは、鉄分と塩分を固めた誘鹿材で全国で使用実績があります。

小型囲いわなの設置場所は米代川周辺で目撃情報が多い事等から能代市二ツ井町字麻生中倉下(天神貯木場跡地)に設置しました。シカは非常に警戒心の強い動物であることから、餌付け期間を設けるため、10月7日に設置しました。わなの扉が落ちないように固定して、わなのなかにシカの誘引剤を敷いて、わなの周囲に取り付けたセンサーカメラで哺乳類の行動を観察し、慣らしを行い、10月24日まで17日間後、10月25日から動物がワイヤーに触れたら扉が落ちる仕掛けをセットしました。また、囲いわな設置期間中は3台のセンサーカメラで監視をしながら、天然記念物であるカモシカがカメラに撮影されたら錯誤捕獲を防ぐため、しばらくの間は扉が落ちないように固定をします。

また、毎日囲いわなの見廻りに行き、えさの摂取の形跡や囲いわなに異常が無いか確認を行いました。その際にはセンサーカメラのデータを取り出し、撮影画像のチェックをして動物類が撮影されていないか確認します。



小型囲いわな設置状況



ヘイキューブ



ユクル

今回の小型囲いわなは積雪のため12月27日に終了しましたが、設置期間中はわなの中に入っている画像が撮影されたのはタヌキだけでした。また、わなの周辺には他にキツネ、アナグマ等が撮影されていましたが、ニホンジカは撮影されていませんでした。

白神山地周辺地域ではニホンジカを目撃情報が年々増えてきていますが、生息数はまだ少ないとみられ、小型囲いわなによる捕獲は容易ではありませんが、設置場所を変更する等捕獲方法を工夫しながら来年度以降も各関係機関とともに継続的に取り組んでいきます。

## 今年度撮影された動物



キツネ



タヌキ



アナグマ

## 平成28年度 第2回巡視員会議を開催



巡視員会議の様子



救急法実技講習の様子

12月17日(土)に平成28年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が、藤里町総合開発センターで開催され、秋田県側巡視員や関係市町の担当者等38名が出席しました。

東北森林管理局計画保全部長から「近年はニホンジカを目撃情報が増加している。遺産地域への被害が懸念される。世界遺産を良好に後世に引き継ぐため巡視活動は益々重要になってくる。」と挨拶があり、(1)関係機関の事業実績、(2)巡視員による巡視活動の状況、(3)合同パトロールの実施結果、(4)核心地域への入山状況、(5)樹木損傷等の状況、(6)ニツ森登山道刈払い、(7)ニホンジカの確認情報、(8)その他(マツクイ虫・ナラ枯れ被害)という8つの議題と、巡視活動に係る安全対策等について話し合われました。

午後はニツ井消防署藤里分署を講師に迎え、登山時の装備を使った運搬方法や応急処置についての救急法実技講習を行いました。今後の巡視活動の安全対策に役立てていきたいと考えております。

今年度第3回目の白神森林講座を、秋田白神コミュニケーションセンターと共催で9月3日(土)に開催しました。鳥取県、秋田市等から10名が参加しました。

今回の講座は、藤里町にある峨瀧溪谷の沢歩きと水無沼の散策を行いました。

峨瀧溪谷は県道317号線から入ることができる林道沿いで、「白糸二段の滝」や森林鉄道の遺構を見ることができます。

最初に峨瀧大滝や白糸二段の滝を見学し、天然秋田スギやイタヤカエデ等の針葉樹と広葉樹が織りなす美しい景色と滝を参加者は楽しんでいました。その後、準備体操をして沢歩きを開始しました。滑らないように荒縄で靴に滑止をして沢に入りました。深い場所や浅瀬等変化にとんでいる清流を、ゆっくり歩きながら楽しみました。また、沢沿いには森林鉄道のレールや遺構の跡を見ながらの説明に、かつて秋田天然スギで活気に満ちた当時に思いをはせていました。

午後からは、水無沼周辺散策を行いました。水無沼は横倉集落棚田の水源となる大きな沼で日本の里山風景を残しています。菅江真澄の歌碑や古い神社などもあり、その歴史に思いをはせていました。最後に参加者からは「沢歩きは気持ち良かった。森林が豊かな水の恵みを与えてくれることを学んだ。」との感想をいただき今回も無事に森林講座を終了しました。



沢歩きで「ここ危ないよ」

## 森林教室

### 早口小学校森林教室

9月6日(火)に総合的な学習の一環として「世界遺産である白神山地の自然に触れ、森林を守ることの大切さや自然のすばらしさを感じ取る」、また、「説明を聞き、質問をすることを通じて調べる力」を高めることを目的に、森林教室を実施しました。

当日は雨天のため、予定していたフィールド学習を変更し、午前研修棟でセンター所長による「白神山地の概要」の講義や、センター職員による「ブナの森の土壌模型を使った森林の持つ保水力」の講義を行い、生徒18名は森林の土壌が形成される長い年月に驚きながら、熱心にメモを取っていました。

午後には雨もあがり、白神山地周辺地域の「水」をテーマに、峨瀧(がろう)の滝の見学や水無沼周辺の自然観察をし、身近にある自然の面白さを体験しました。

最後に生徒さんから「白神山地のすばらしい自然を大切にしていきたいと思います。」と力強い感想をいただき森林教室を終えました。



森林教室の様子

### 藤里幼稚園岳岱ぶなの森探検

毎年恒例となっている「藤里幼稚園ぶなの森探検」を2日間にわたって学習しました。10月3日(月)、園児16名が白神山地世界遺産センターで事前学習をしました。ここでは、2日目に予定している岳岱自然観察教育林でのぶなの森探検でも見学する「400年ブナ」の等大の写真があったり、また白神山地での自然観察ができるようになってきました。センター職員はブナの森や動物、昆虫等についてわかりやすく説明しました。その後、園児たちは興味のある展示やブース等を回り楽しく学習していました。

10月6日(木)は曇で少し肌寒さがありましたが、園児たちは元気よく岳岱自然観察教育林内を探検しました。2班に分かれセンターの所長と職員が講師をしました。黄色く色づき始めたブナ林で、大きな「400年ブナ」を実際に見て驚いたり、ブナの実や堅果に触ったり、また、キハダをなめて「苦い」と顔をゆがめる等五感をフルに使って探検学習をし、今年も元気に探検ができました。園児たちが成長してまた、ここに足を運んで少しでも思い出してもらえたらと職員一同願っています。



ブナの実だよ!

## 藤里町民祭参加「木工教室開催」

10月29日～30日に藤里町民祭白神ふるさとまつりが藤里町町民体育館にて開催され、町内から沢山の方が来場し、賑わいました。

当センターも2日間参加しました。白神山地の山々や動植物の写真、当センターの取り組みや活動紹介のコーナー、ニホンジカ対策として設置しているセンサーカメラの展示を行いました。

また、木の実や小枝を使った木工教室や白神山地のブナ等の葉っぱを使ったしおり作りも実施しました。

木工教室では、家族みんなで思い思いの作品を何個も作っていました。また、しおり作りも「孫にお土産として作りたい」と作っていく方もおり、子供から年配の方まで幅広い年代層に楽しんで頂くことができました。

2日間、人が途切れることはなく、当センターの取り組みや活動等、広くPRする機会となり、皆さんに感心を持ってもらうことができました。



木工教室の様子

## 木育キャラバンin白神山地 (円卓会議に参加して)

11月12日(土)、13日(日)に木育キャラバンin白神山地が藤里町主催で行われ、当センターから所長が木育円卓会議にパネラーとして参加しました。

木育とは、幼児期から原体験として木と関わることで、木に対する親しみや理解を深め、ひいては木を生活に取り入れたり、森づくりに貢献したりすることのできる人の育成を目指す活動です。

木育円卓会議では、藤里町の面積の9割が山林であるという環境を活かすため、木材を活かした仕事と子育てライフスタイルを探る木育の有識者である東京おもちゃ美術館の馬場副館長と町内の木に関わる方々が意見交換を行いました。副館長による事例の紹介後、「藤里町の木を使い子供たちに木製玩具のプレゼントや建設物を木質化し木育空間を作る」などの提案がありました。パネラーからは「白神の象徴であるブナ材を利用した玩具などがないのでは」「ブナを植えて育て木材として利用できる取り組みをしたい」等の活発な意見がありました。持続可能な森林資源を利用する観点からも、今後の木育の取り組みに大いに期待されるところです。

## あきた白神まつりで、晩秋のブナ林「銀細工の森」トレッキング!

11月13日(日)に行われた、藤里町商工会、秋田県主催、東北森林管理局等が協力し「あきた白神まつり」が開催されました。

多くのイベントの中の1つで「銀細工の森」トレッキングとして、岳岱自然観察教育林を秋田白神ガイド協会や当センター職員が案内しました。

今にも雨が降りそうな天気でしたが持ちこたえ、肌寒さもある中、林内のブナは黄葉が終わり「白い枝」となり森が銀細工のように輝き、冬を待ちわびる凜とした風景に歓喜が上がっていました。



ブナの雅幼樹について説明

## 編集後記

季節を分ける「節分」、「立春」と暦の上では春ですが、今年は雪が少ないのかと想着たら2月に入りどか雪が降ったりと春の足音が近くて遠いような気がします。

噂では、藤里町の素波里周辺の山は例年より雪が多いと聞きましたので、今年は山の恵みに少し期待しております。ふきのとう、クサソテツ(コゴミ)、ねまがりだけ(たけのこ)、等々……、  
本年も広報「白神通信」を職員一同よろしく願いいたします。